

## ■令和5年4月5日 定例記者会見内容

- 1 日時 令和5年4月5日（水）13：30～14：30
- 2 場所 市役所本庁舎3階第3委員会室
- 3 出席者 ○市長、副市長、総務部長、企画部長、地域創生部長、地域医療調整監、市長公室長、企画調整課長、交流観光課長、健康課長  
○酒田記者クラブ7社（毎日新聞、読売新聞、河北新報、山形新聞、荘内日報、NHK、YBC）  
○コミュニティ新聞社、共同通信社（記者クラブの承認により出席）

## ■市長発表事項

- ・特に無し

## ■代表質問

### 1 洋上風力発電において、酒田市沖が酒田部会で承認されたことについて

記者／洋上風力に関してですが、酒田市沖が酒田部会で承認されまして、国に情報提供されることになりました。これについての受け止めをお願いします。

市長／改めて申し上げるまでもない話なのですが、今の酒田部会がいわゆる「山形県地域協調型洋上風力発電研究・検討会議」という全体会も経て、有望な区域の選定ということで、国に情報を山形県が挙げるといふところまで決定をいただきました。

おそらくですけども、今月中には、県が有望な区域ということで、国に情報提供する予定であると、このように伺っております。

夏以降には、有望区域としての選定が受けられるのかなあという、そういう思いを持ちつつですけども、選定されれば、国が設置をいたします再エネ海域利用法に基づく法定協議会、これが設置されていくものと、このように受け止めております。

この段階まで来たということで、今後、酒田市沖についても、漁業者との共存共生ですとか、或いは港湾の振興、それから、それに伴う産業集積も含めた産業の振興や、もちろん、海上に風車が並ぶということでの、環境や景観等への配慮といった形で、いろんな議論がその中で具体的に進んでいくのだろうと、このように思っています。

いずれにしても、そういったものを全部踏まえて、地域の理解を経て、この洋上風力発電というのは、前に進んでいくのだろうと思います。

なお、山形県から指導をしていただいて、その辺の議論を進めていただきたいなど、そういう思いを持っております。

遊佐町沖が、酒田市沖よりも、今、進んでいまして、遊佐町沖は先行していますけれども、基本的にはエリア的には繋がっているエリアなので、同じ洋上風力事業という形で、これから一体となった議論が、この地域にとっては必要になってくる、そういう進め方になると思います。

やはり、酒田市としては、この洋上風力発電設備の建設にあたって、維持管理で必要となる拠点港湾、いわゆる基地港湾ですね、洋上風力の拠点港湾機能を何とか酒田港が指定してもらえるような、そういったところにたどり着けば、地域経済への波及効果も最大化

するでしょうし、そういったところを睨みながら、事業の進捗が進んでいけばいいかなと、そういう受け止めにさせていただいております。

いずれにしても、洋上風力発電を事業として成功させるということだけでなく、この地域の産業の受け皿として、工業用地だったり、或いは海上輸送網を活用した港の活用だったり、それによって、また、雇用が生まれるということもあるでしょうし、この地域の発展に繋がるような形で、計画が進むことを望んでおります。

その点に関しては、山形県と連携をしながら、酒田市としても進めて参りたいなど、このような受け止めにさせていただいたところでございます。以上です。

## **2 山形県・酒田市病院機構の理事長が新たに島貫氏になり、栗谷氏が病院機構「医療連携顧問」、酒田市「地域医療政策顧問」に就任したことについて**

**記者**／山形県酒田市病院機構の理事長が新たに島貫氏になりました。前任の栗谷氏は病院機構の医療連携顧問、先日、酒田市の地域医療政策顧問にも就任されました。この新体制の期待と受け止めをお願いいたします。

**市長**／まず、栗谷前理事長につきましては、平成20年4月に、山形県酒田市病院機構の理事長になられたわけです。

ご存知の通り、経営手腕を発揮されて、普通では考えられない14期連続で黒字経営を維持されました。母体は公立病院なのですが、地方独立行政法人になってそういう経営をされたということは、私どもも大変驚きでしたし、この地域医療にとっては本当に大恩人だと私は思っております。

そういった意味で、先生の病院経営の能力というのは、なかなか余人では代えがたいものがあるな、という認識は持っておったのですけれども、今回、代わられたということで、そこは、諸々の事情があり、判断があって、そうされたということで、尊重をしたいなと思っております。

ご存知の通り、「地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネット」の設立でも、手腕を発揮された方でございますし、この地域の医療、介護、福祉を連携した地域包括ケアシステムの構築のために、もっともっと自分も貢献したいという思いがございます。

従って、地域医療政策顧問ということで、酒田市としても非常勤特別職に招いて、我々が地域医療を推進する上でいろいろなアドバイスをいただいたりして、何とか、この地域医療環境を、維持発展させていきたいと思っております。

そういった意味では、病院機構の理事長は退任されましたが、この地域医療の整備については、まだまだお力を借りなければいけないと思っておりますので、今度、行政としても、栗谷顧問と一緒に、地域医療のあるべき姿を何とか作り上げていきたいなど、このように考えております。

それから、島貫新理事長につきましては、島貫先生も、もともとは心臓血管の外科医ということではありますけれども、病院長として、日本海総合病院を支えてこられましたし、病院機構の副理事長にもなっております。

ですから、栗谷前理事長と同じベクトルで、この地域医療のことを考え、そして、いろいろな環境整備をされてきた方だと思っております。

具体例を言うと、「ちようかいネット」を導入して、地域の医療機関等の連携を深めたり、それから、秋田県のネットワークとの連携など、そういう仕掛けをされている方でございますので、更なるこの地域医療環境の充実に向けて、島貫新理事長の手腕にも期待を申し上げたいなと思っております。

島貫先生と私ども、院長時代からきめ細かく連携をとらせていただいております。コロナのワクチン接種の関係では、いろいろな面でアドバイスをいただき、そして、いろいろな対応を日本海総合病院からもしていただきましたので、そこは本当に信頼をされる先生で、今後とも行政と一体となった病院機構の動き、活動について、連携して参りたいなと思っております。

特に今、島貫先生との連携の中では、「医療マース」ですよね。

山形大学、それからNTT東日本さんとも一緒になって、本市の中山間地域での医療マース事業をこれから実証実験として手がけようとする中で、飛島では1回実証実験を実施しましたが、これも島貫先生が主導をして取り組んでいただいた事業ですので、そういった意味でも、医療マースということについて、日本海総合病院を巻き込んだ形でこれからもっともっと発展をさせ、もし、実証実験の結果が良ければ、離島だけでなく、全ての中山間地域の間でそういった医療マース事業を拡大して展開していければと思っております。

いずれにしても、島貫先生を中心とした、日本海総合病院との連携の中でこれを発展させていきたいなと、そんな思いを持っているところであります。

### **3 3年ぶりの国際クルーズ船の寄港について**

**記者**／明日からになります、3年ぶりに酒田港に国際クルーズ船が寄港されるということで、こちらの期待と受け止めをお願いします。

**市長**／明日入港される、「シルバー・ミュージ」は、ラグジュアリークラスということで、これまで入港したクルーズ船とはまた少し、ランクが上、高級層指向のクルーズ船ということで、私ども久々のクルーズ船入港ですので大変期待をしております。

今回、この「シルバー・ミュージ」が入港していただけるというのも、以前「コスタ ネオロマンチカ」が入港した際の船会社の日本支社長さんであった方が、今回、会社を移られて、このシルバーシー・クルーズという会社の日本・韓国支社長になられたということもあり、これまでの酒田のもてなしというものを非常に気に入っていただけたということで、今回「シルバー・ミュージ」の入港というものに繋がったのではないかなと思っております。

そういった意味では、コロナで中断はいたしましたけれども、またクルーズ船の入港が復活して、地域に活力をもう1回、酒田港を通して、外国の方々が酒田のまちに溢れるという意味で、にぎやかなまちづくりに貢献をいただければありがたいなと、このように思

っております。

お手元に資料をお渡しいたしました。4月に実は4回、それから夏以降に2回の計6回。

過去は、外国のクルーズ船は5回が最高でしたので、本年度、外国のクルーズ船としては一番多く入ってくる年度になります。

そこに、寄港時間とか、乗客の定員とか、歓迎式典、それから全体の日程、それから市内でのおもてなしの状況を表にまとめてありますので、これなどもご覧いただきたいなと思います。

久しぶりの入港ですので、市民を挙げて歓迎をしたいと思います。

明日はやはり、桜満開のもとで、シルバー・ミュージックとル・ソレアルは、日和山公園に立ち寄っていただくという工程を組んでいまして、桜が一番のおもてなしになるのではないかなという思いはありますが、今のこの季節の酒田の魅力というものを、皆さんにお伝えできればいいかなと、こんな思いを持っているところです。

何とか、今年度の6回の寄港を一つ弾みとして、更なるこの寄港増に向けて我々も一生懸命売り込みをしていきたいと、このように思っております。そのためにも、感動的なおもてなしを、是非、乗客の皆さんには見ていただきたい、体験していただきたいなど、そんな思いであります。以上です。

**記者**／今、お配りいただいた資料の件で1点、先頃、プロスパーポート協議会の方からも資料があったのですが、シャトルバス運行、周遊バン運行はこちらの方になかったもので、こちらは酒田市独自の取組みになりますでしょうか。

**市長**／酒田市独自で取り組ませていただきます。特に、周遊バンという形で、日和山公園、山居倉庫、土門拳記念館との行き来、そういったものをやらせていただきますし、日和山の中でも、小幡楼から山王くらぶと相馬楼、これもシャトルで繋いで、あの一带を楽しんでもらいます。

特に、小幡楼の2階では木工品（天童木工など）の展示販売などを行ったり、山王くらぶではちょうど傘福の展示を行っています。それから相馬楼では、酒田舞娘さんの演舞なども鑑賞をしていただくということで、ここは酒田の魅力を発信する絶好の機会ですので、しっかり皆さんをおもてなししたいなど、このように思っております。

#### **4 酒田市長選への対応について**

**記者**／今、統一地方選の真只中ですが、酒田市長選への対応について、お聞かせください。

**市長**／結論から言うと、まだ判断しておりません。前回は記者会見でお話ししましたが、県議会議員選挙が終わってから、少しいろいろな方と相談してみたいなと思っております。もう少し時間をいただきたいなと思います。

#### **■フリー質問**

##### **1 国際クルーズ船寄港によるシャトルバス等について**

記者／先ほど山新さんから出た、市独自のクルーズ船の取り組みですけれども、シャトルバスは、埠頭から日和山へ行ってその後、小幡楼とか山王くらぶとか相馬楼に行くという、一連のシャトルバスということによろしいでしょうか。それとも、別のシャトルバスでしょうか。

地域創生部長／別のシャトルバスです。そのコースをルートで回るだけですので。

記者／団体ツアーみたいに1ヶ所、2ヶ所、3ヶ所と行くようなものでしょうか。

地域創生部長／そういうものではなくて、8人乗りぐらいの小さなバンで、それを連続的に運行して回って行って、乗りたい方は手を挙げてもらうとか、そこに留まってもらって乗っていくような、そういうイメージです。

記者／土門拳とか山居倉庫に行くルートとかが、要するに、3コースあるみたいなイメージですか。

市長／3コースというか、一つは日和山、山居倉庫、土門拳に行って、また山居倉庫、日和山に戻ってきて、また、山居倉庫に行くという、そういうルートです。

それから、山王くらぶ、小幡楼、相馬楼、その3つの施設を回るルートがあります。

記者／分かりました。ありがとうございます。以上です。

## 2 チェンジ・ザ・ワールド社の倒産について

記者／2月27日のチェンジ・ザ・ワールド社の倒産の件ですけれども、これについて、チェンジ・ザ・ワールド社は「もっけ玉」で、チケットサービス事業をされていて、酒田市さんもコロナの支援ということで、事業評価としても地方創生に寄与したという評価をされたとお話を伺っています。破産についての受け止めを、まずお聞かせください。

市長／結論から言うと、大変残念だなと思います。

「もっけ玉」の時は、どういう支援策があるかということ、考えていました。いち早く、あのような斬新な事業計画というか、そのようなプランを練られて提案されたということで、我々も面白いかもねという話をしていました。

あのような仕組みを考えられたというのは、若い企業でしたけれども、さすが今のIT技術をうまく使った事業を発案されたということで、私はあの時は面白いという判断で提案を受けたわけです。

あの事業が、その年度で終わった後に、太陽光発電だとか手広くいろいろな事業をされていって、新橋のところにコワーキングスペースを作ったりして、独自の展開をしておりました。いわゆるベンチャーとして、地元で起業をして、かつ、活動も活発にやられているなということで、期待はしておったのですけれども、ちょっと国の仕組みが変わって、あのように事業が立ち行かなくなったということは大変残念だなと思います。

やはり、なかなかベンチャー企業というのも難しいものだなと、改めて認識をさせていただきましたけれども、事業が成功して、もっともっと事業が拡大されて酒田市のベンチャー企業として成功してもらえればなという思いはあったのですけれど。

東北で色々な賞などももらってました。期待はしていたのですけれど、やはり、現実

はそう簡単ではないなど、改めてビジネスの難しさというのを痛感した出来事だったなど、このように思っています。

**記者**／2点目ですけれども、今、東北で各賞を受賞されたとお話出ていましたけれども、2020年に経産省、環境省、2022年に経産省と3つの賞を受賞されていて、これに関して、例えば、酒田市さんの方でチェンジさんを推薦したとか、応募したとか、そういった事実があるのでしょうか。

**副市長**／チェンジ・ザ・ワールドというよりは、一般社団法人日本西海岸計画が、ベンチャー企業のスタートアップ支援を行っていて、その部分の活動について、推薦をしています。チェンジ・ザ・ワールドの事業を推薦したわけではないです。

**記者**／国の3月16日の参議院の消費者問題に関する特別委員会で、審議会の環境省、経産省の審議官の方からは応募ベースだというお話があつて、主体的な選定ではなく、応募があつたから選定したというお話ですけれど、酒田市さんは、推薦はしていない、応募もしていないということですね。分かりました。

### 3 医療マースへの市の関与について

**記者**／先ほど、医療系の話の中で、医療マースの話が市長からありましたけれども、実証実験もこれから始まりまして、先ほどこれで上手くいけば拡大していきたいとありましたけれども、酒田市として、実際、実証事業はどれぐらい関与しているのでしょうか。

**市長**／中山間地域の方は、基本的には医療マース自体は、車はN T Tさんで、遠隔診療的なことはやはり、日本海総合病院が中心になります。我々はどちらかというと、医療マースの中でも、直接というより、その地域（日向コミュニティ振興会）との協力関係の中に、我々が介在しているという形です。日向コミセンは、医療マースの車の派遣先ということで、協力関係を作っているというのが一つです。

それからもう一つ、その地域を巻き込んだ子供たちだとか、高齢者の皆さんの集いの場を設定するということをも市の事業として行います。

例えば、公益大と遠隔でいろいろな交流事業を行うとか、そこは今度市独自の事業となって構築をします。

今回の医療マース、山形大学で提案をしている事業というのは、複合された事業医療で、まずはその一部ということなのですが、全体事業とすると、有機E Lのパネルを使った交流事業を中山間地と公益大学とで行います。

それから、医療については、日本海総合病院と、地域、そしてN T Tグループが行うとか、そういうふうに複合的に絡み合っています。

医療マースが、一つ一つ単独で言葉としては動いているのですが、実際は、事業としては複合的な事業です。

それを、J S T、科学技術振興機構というところに提案をして、助成金を山形大学がもらいながら、この医療マースとか、それから地域と学校との交流事業だとか、それから地域の子供たち、或いは地域のお年寄りの皆さんが、コミュニティセンターに集まり、そこ

に、医療マースで車が行くとかですね、そういう絡み合わせているというところが、この事業の総体なのですね。ですから、医療カーで行って、遠隔で診断するというところだけをとらえると、NTTグループと日本海総合病院の2社の事業があって、一番核になっているというとらえ方をしてもらえればなと思います。

市としては、その医療の取り組みのところで、地域づくりにもつなげていきたいというような認識です。

もう一つは、八幡地域は、八幡病院というのがあったわけですけど、今は八幡クリニックという形で日本海総合病院の先生がそこにいるわけです。その絡みで、日本海総合病院の先生がそこに行っています。遠隔診療も仕組みが簡単ではないのです。ただ遠方でお医者さんが診察するというのではなくて、八幡クリニックが絡む可能性もあるんですね。**地域医療調整監**／医療マースそのものは、八幡クリニックと松山診療所が母体になって、まずは、今、市長が申し上げたとおり、医療の方を先行して、実証が進んでいるということになります。従ってそこは、医療だけを切り取れば、日本海総合病院の取り組みという理解でよいです。市は、設立団体だったり、もともと八幡クリニックも市が運営していた医療機関でありますので、そういった意味でサポートします。全体は市長が申し上げたとおりです。

**市長**／松山診療所や八幡クリニックなどの財産は、酒田市が持っているものもあるので、そういう面では医療マースという事業をやる時には、やはり酒田市も絡んでいるということにどうしてもなってしまうのです。

#### 4 いじめ重大事態再調査委員会の進捗状況について

**記者**／2021年の2月に、自死された酒田市の中学生の件についてですけど、今年1月から第三者委員会のメディアに対する取材とか対応とかというのが、それ以降、すっかり途絶えている状態です。その後、市長に第三者委員会の進捗について、何か入っていることがございましたらお聞かせください。

**市長**／ご本人だとか、関係する教員さんとか、それから、生徒さんの関係では、ヒアリングを粛々とされているということで聞いております。

生徒さんは、ちょうど受験シーズンだったので、少し遠慮してきたという経緯は何っていますのでこれからですよ。一応、受験も終わりましたので、これから、生徒さんへの調査みたいなものを、再調査委員会で行うという話は何っています。教員の関係は終わったのですよね。ですから、皆さん方（報道）に、直接、今、何月何日何時に、こういうことをやります、という情報はいつないかもしれないですけど、調査自体は、粛々と再調査委員会の皆さんが行っているということのようです。

**総務部長**／補足してちょっと、お話をさせていただきます。

以前は、毎回、再調査委員会の度に、皆さんに記者会見のような形で情報提供させていただいていた、というところですけども、ヒアリングという形になって、個別日時が特定されると、なかなかやりにくいというところもあって、そこを伏せた上で、実際行ったも

のには、今まで8回ほど再調査委員会の方は行わせていただいております。ヒアリングと、その聞き取りの打ち合わせですね。誰がどういうふうに聞いていきますか、という打ち合わせを含めて、これまで8回させていただきます。

今後、ヒアリングがもう少し続きますが、少し時間も経ってきたので、いずれかのタイミングで、今の状況についてどうなるかというお知らせは、5月に入ってからかもしれませんけれども、何らかの形で、考えていきたいというふうに考えてございます。

## **5 酒田市長選への対応について**

**記者**／先ほどの、市長選への対応なのですけれども、もう少し時間をいただきたいという話なのですけれども、判断の目途といいますか、8月の27日に投開票というか、日程はもう決まっているのですけれども、そうしますと、もう、半年は切っているわけですよね。6月議会というのが一つ、これから考えられることとしてはあるのかなと思うのですが。その前くらいまで、6月議会の前の段階での判断を考えているのか、それとも、そこはそこまでこだわってなくて、6月議会というところが、一つの目安になるのか、そのあたりについて、ちょっとお伺いしたいのですけれど。

**市長**／結論をいうと、あまり考えていないのですけれど、あまりそこまで深く。6月議会前とか6月議会とかは考えてないのですけれども、やはり、議会で聞かれるということは、頭の中にどうしてもあります。私、前回の時も議会で正式な表明をしたと思っていましたので、12月議会ですけれど、やはり今、ここまできますと、6月議会というところを一つ、節目としては考えざるをえないかなとは思っています。ですから、その第一声が6月議会になるのか、その前になるのかはちょっと周りの状況がどうなるか分からないので何とも言えませんけどね。

でも、ある意味、目標点というかぎりぎりのところとしては、やはり6月議会というところは、そこでは何らかの結論を出さないと、もう日にちが迫っていますから、そこはそうなのだろうなと思って、今は考えてはおります。

## **■その他**

- ・特になし